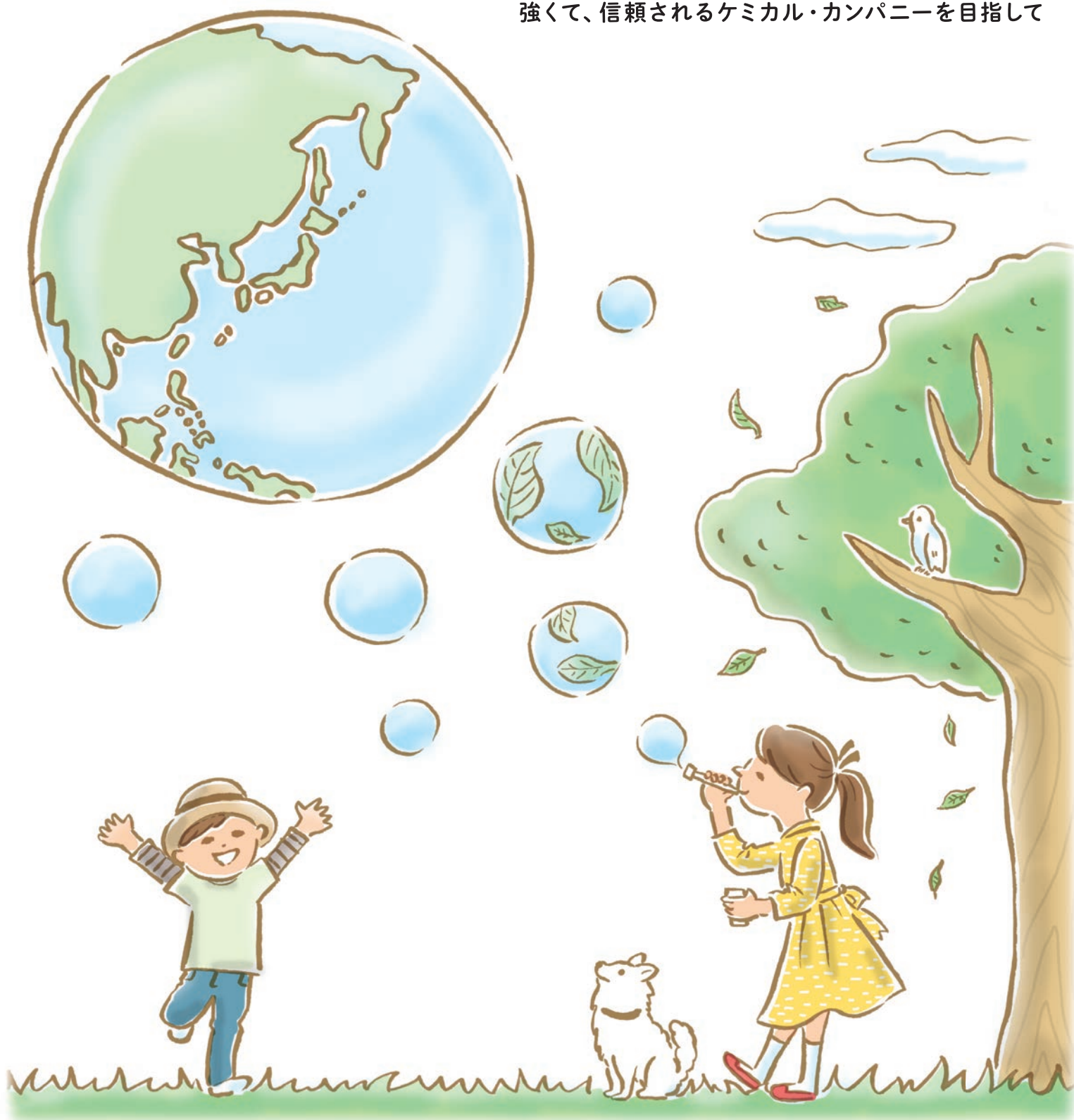


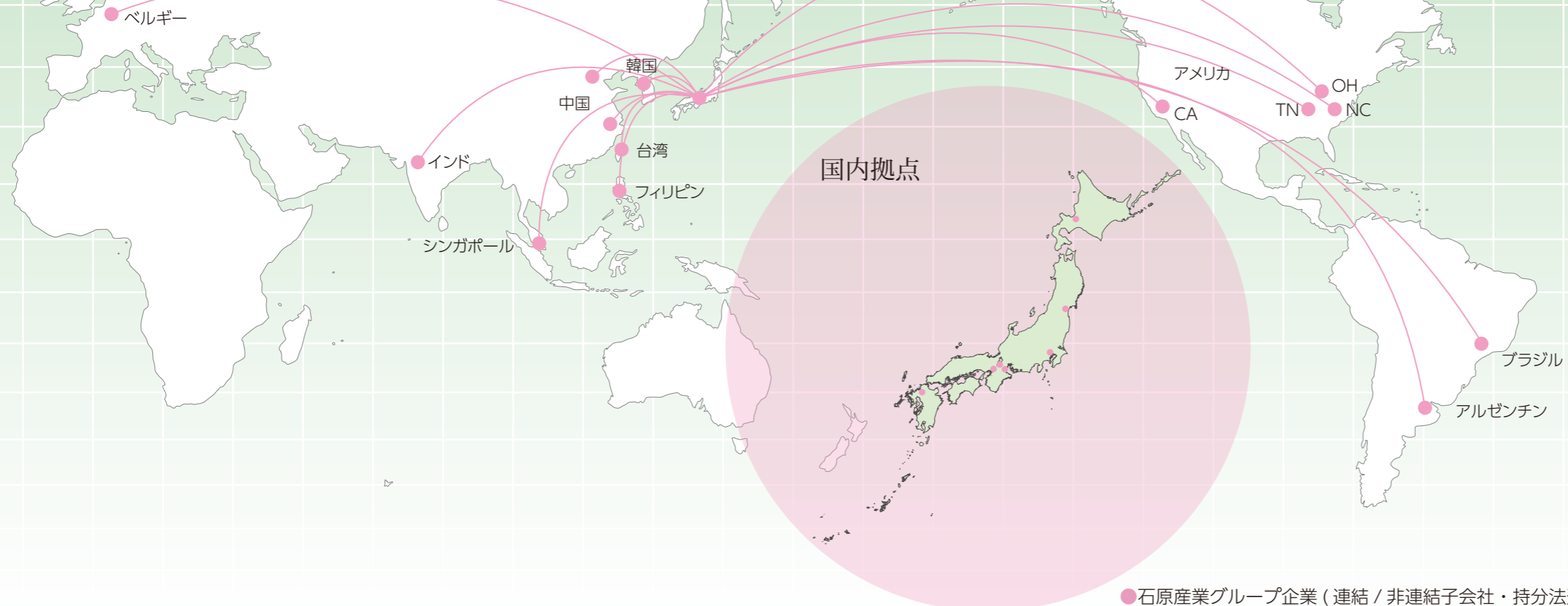
# Challenge for 2020

強く、信頼されるケミカル・カンパニーを目指して



## 石原産業CSR報告書2017

# グローバルネットワークを築き、 世界の色彩・食・健康に貢献



## 目次

トップメッセージ	3
企業理念	5
第6次中期経営計画	6
特集1 有機技術の新たな展開	7
レスポンシブル・ケア活動	11
環境保全	13
TOPICS ①環境負荷低減を目指して	15
特集2 新人事部長に聞く ISKの人材育成・働き方	17
保安防災 / 労働安全衛生	21
物流安全 / 化学品・製品安全	22
社会との対話	23
TOPICS ②従業員 VOICE	24
ISKの足跡	25

●石原産業グループ企業（連結 / 非連結子会社・持分法適用 / 非適用関連会社を含む）の所在地を示しています。

## 会社概要

商号 石原産業株式会社  
ISHIHARA SANGYO KAISHA, LTD.

本社 〒550-0002  
大阪市西区江戸堀一丁目3番15号

創業 1920年9月10日（大正9年）

設立 1949年6月1日（昭和24年）

資本金 434億円（2017年3月31日現在）

従業員 (2017年3月31日現在)  
単体：1,078人  
連結：1,581人

事務所 大阪本社、中央研究所、四日市工場、  
東京支店、中部支店、札幌営業所、  
仙台営業所、福岡営業所、  
アルゼンチン支店、シンガポール支店、  
北京駐在員事務所

## 創立100周年（2020年）に 向けたあるべき姿



## 事業紹介

### 無機化学事業 暮らしを白で革新



自動車、飛行機から身近な生活家電まで、日常のありとあらゆるところに白色顔料 酸化チタンは用いられています。産業廃棄物の排出が少ない高度な技術も用いながら、高品質の酸化チタンを世界に供給しています。また、酸化チタンに関する技術を活用し、導電性材料など白色顔料以外の用途展開を進めるほか汚染土壌の浄化等の商材を通じて環境問題解決への貢献も行っています。

### 有機化学事業 食と健康を革新



70年前に海外から除草剤を導入後、培ってきた世界トップクラスの技術力を活かした安全性が高く環境への負荷が少ない農薬製品をグローバルに供給し、世界の食卓に上る農作物の安定供給に貢献しています。また、農薬開発で培った有機合成技術を活用し、医薬品の有効成分となる原薬、原料となる中間体、医薬品研究を支援する試薬の開発・製造・販売を通じて、人の健康へも貢献しています。







## 2020年創立100周年に向けて — 『三方良し』の経営を実践 —

### トップメッセージ

当社は2009年に、創立100周年の2020年に目指す企業グループ像を定め、以来その実現に向け日々取り組んでおります。ある調査結果によると、日本には創業100年以上の企業が実に2万数千社もあると言われ、これは世界の中でも抜け出た数字となっています。

当社も3年後には100年企業の仲間入りをすることになりますが、100年以上続く企業に共通する特徴は、環境の変化に柔軟に対応しながら顧客、取引先、従業員との信頼関係を重視することは勿論のこと、社会との関わりを重視し、信頼される経営を実践してきている点であると考えます。これは、近江商人の心得である「三方良し」すなわち、「買い手良し」、「売り手良し」、「世間良し」の3つの「良し」につながる、まさに、現在のコンプライアンス経営やCSR活動の原点ではないでしょうか。

当社は、ケミカル・カンパニーとして、地球にやさしい「化学」を志向した研究や技術開発を推進し、人と自然環境との調和に貢献できるような「ものづくり」に取り組んでいます。これら取り組みを通して、少しでも地球にやさしく、また、人々の生活や社会的価値の向上に資する新たな製品を社会に提供することこそが、当社に課せられた使命であり、強いケミカル・カンパニーへ進化する鍵となると考えております。

また、企業活動においては、多様な人材育成、男女共同参画、ワークライフバランスの充実等を実践して、社員にとっても働き甲斐のある社内環境の構築を目指していきます。

さらに、四日市公害やフェロシルト問題といった過去を肝に銘じて、常に『遵法精神を重んじた透明な経営』を行い、信頼されるケミカル・カンパニーであり続けるよう努力して参ります。

この報告書を通じて、当社の取り組みの一端をご理解いただければ幸いです。

石原産業株式会社  
代表取締役社長

田中健一



# 企業理念

石原産業グループで働くすべての者の道しるべとして、企業の目指すべき理念（基本理念）と企業人として心掛けるべき行動（行動基準）を「企業理念」として定めています。

## 基本理念

「社会」、「生命」、「環境」に貢献する。  
 株主、顧客・取引先、地域社会、従業員を大切にする。  
 遵法精神を重んじ、透明な経営を行う。

## 行動基準

社会から信頼される事業活動を行うため、社会規範、法令、会社の諸規定を遵守し、高い倫理観と良識をもって行動する。

ものづくりに際しては、地球環境との調和を図り、常に安全確保に万全を期し、無事故・無災害に努める。

相互協力、相互理解により人権を尊重し、風通しのよい働きやすい職場をつくる。

企業活動の透明性を保つため、企業市民としてコミュニケーションを重視し、企業情報を適時、的確に開示する。

## 行動規範

当社グループは、事業活動を推進する上で透明性、信頼性、健全性を持った会社として、公正な企業活動と高い企業倫理を保ち、法令・ルールや社会規範を遵守する企業経営を推進することを社内外に宣言しています。

当社グループの全構成員は、基本理念、行動基準、行動規範が記載された小冊子（写真）を各自所持し、常に参照・活用しています。

行動規範 (Code Of Conduct)  
 ~158グループすべての構成員のためのコンプライアンス~

石原産業 行動規範 検索

# 第6次中期経営計画 (2015年度～2017年度)

当社グループは、創立100周年の2020年に向けて Challenge For 2020 をスローガンに、“強く、信頼されるケミカル・カンパニーとしてのブランド力のある会社”を目指しています。無機化学・有機化学の両事業ともに「既存事業の強化」と「成長基盤の強化」を骨子とした施策に取り組み、速やかに業績を安定させ利益ある成長軌道に乗せることを最大の目標としています。

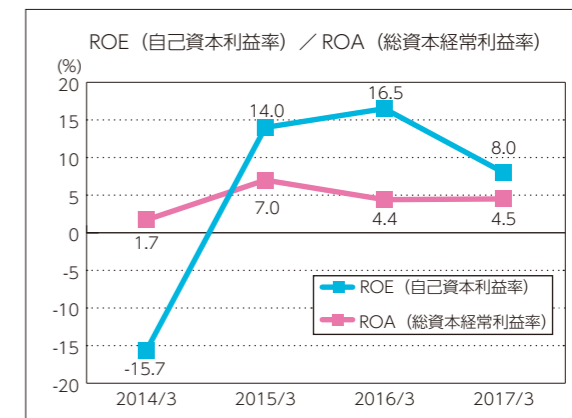
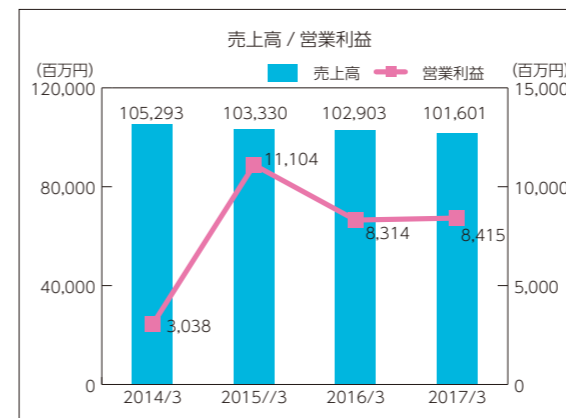
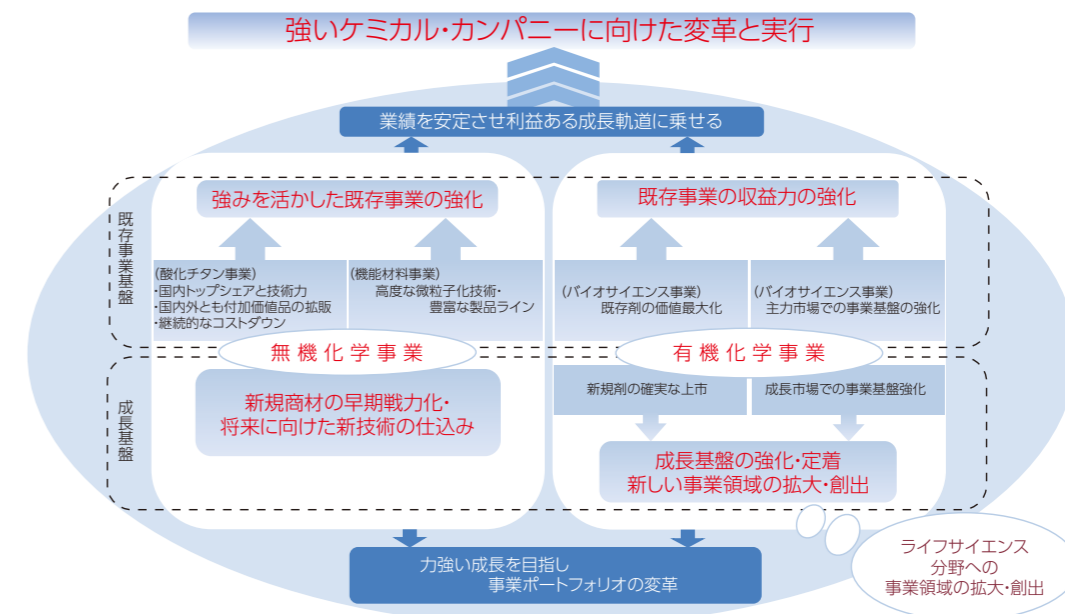
## 2017年度のアクション

### 無機化学事業

タイプク (TIPAQUE) ブランドを更に進化させ、汎用品から付加価値の高い製品を供給する方向性にシフトします。具体的には、超耐候性銘柄の海外市場開拓や環境・省エネに資する機能材料製品（遮熱 / 防汚等）の需要掘り起こしを進めます。

### 有機化学事業

自社開発の新規農薬の確実な上市や海外拠点の強化に注力します。具体的には、当年度に欧米など主力市場で自社開発してきた一連の新規農薬を計画通り上市し、普及促進を進めます。また、成長市場のアジアでの現地拠点作りを進めます。



# 特集 1

## 有機技術の新たな展開 —更なる社会貢献を目指して—

本特集では、当社の有機事業の柱である「アニマルヘルス事業・ライフサイエンス事業・バイオサイエンス事業」についてご紹介します。なお、バイオサイエンス事業では、環境に優しい IPM 防除体系について座談会を開催しました。

### アニマルヘルス事業

#### アニマルヘルス分野への進出

2016年5月にアニマルヘルス事業本部を設置し、動物薬の開発から商品化までを行う事業を新たに立ち上げました。動物薬は牛、豚などの産業動物分野と、犬、猫などのコンパニオンアニマル（伴侶動物）分野に大別されますが、当社は後者をターゲットにしています。農薬開発を通じて蓄積してきたノウハウをアニマルヘルス分野に応用し、動物たちの命を守り、ひいてはコンパニオンアニマルに関わる人々の心の豊かさ

#### 動物薬開発の現状

動物の医療は獣医師の領域ですが、人の医療の場合と同様に、様々な薬剤が疾病の予防や治療に使われています。しかし、動物用に使用方法の確立した薬は意外に少なく、人と同様な疾病・疾患であっても、その流用（法的には制限されていない）が、動物の命を危険に晒すことも多いと言われています。もちろん個々の動物に特徴的な疾病・疾患もあり、その需要に応えるには程遠いという現状です。

#### 動物薬開発の経緯

当社は、農薬等、生理活性を有する化学物質を創製し、社会に提供することを目指しています。これまでに約20種類の農薬を世界の農業現場に提供し、年々増加を続ける人類の食糧供給に貢献してきたと自負しています。この一連の研究開発の中で、創製した低分子化合物を医薬用途開発に検討をしたものが幾つかありましたが、極めて有用なものであっても、世に出る機会を失い、研究所に眠ったままのものが数多くあります。そうした化合物に光を当てようとして、アニマルヘルス事業本部で開発を行っています。

そのような中で、犬や猫に比較的発症例数が多く、重篤になれば死にも至る重要疾病に対する有効な化合物を見出し、社会に提供することを目指しています。今や、家族の一人、社会の一員となったコンパニオンアニマルの命を守り、少しでも長く、仲良く暮らしたいという動物を愛する皆様の願いに報いることを使命として、一日も早い実用化に向けて取り組んでいます。

#### 広がるフィールド

動物医薬品以外にも、コンパニオンアニマルの命を危機に晒す寄生虫類（体内に寄生するフィラリア原虫や体表に寄生するノミ・ダニ類など）の駆除薬も、新薬の要求度が高まっています。これらに有効な化合物が、当社の化合物倉庫に眠っているのではないかと、その評価も鋭意進めています。アニマルヘルス分野のフィールドは広く、可能性を秘めています。どうぞ今後の展開にご注目ください。

アニマルヘルス事業本部 本部長 吉田潔充

### ライフサイエンス事業

当社の基本理念には、「社会」、「生命」、「環境」に貢献すると定められています。当文言にはライフサイエンス事業による社会貢献の達成が込められているとの認識をしています。ライフサイエンス事業本部では、医薬品・医療機器への新規参入を目指して日々業務に取り組んでいますが、残念ながら、まだ会社収益に十分貢献するには至っていません。当事業本部では「小さく産んで、大きく育てる」をスローガンに、サステナブルな事業体制を構築して、早期に社会貢献に繋がれるよう、各事業課題に邁進しています。取り組んでいる技術・製品を以下に紹介しますが、ライフサイエンス事業の性格上、いずれも商品化（上市）できれば社会貢献に繋がるものと確信しています。

#### HVJ-E 関係（研究用試薬、医薬／抗癌剤）

バイオ研究者向けの試薬 ゲノムワンは、近年医療として具現化されつつある遺伝子治療やゲノム編集の研究用ツールとして期待されます。そこで、グローバルな展開をより積極的に進めようと考えており、海外の販売会社（米国、中国等）への接触を開始しています。

医薬用 HVJ-E は新規抗癌剤として開発しており、最近非常に注目されている癌免疫療法に分類されます。現在進行中の医師主導治験では、メラノーマと中皮腫を対象に、2017年度より第2相試験（本格試験）を開始する予定です。第1相試験中の前立腺がんを含めて、これら臨床データ等に基づくライセンス活動により、提携先の早期獲得を目指します。



ゲノムワン



オセジョイン

#### 医療機器（骨セメント～人工骨展開）

酸化チタンの機能性（骨結合能）を利用した国産初の人工関節固定用骨セメント オセジョインの製造販売承認を2016年9月に取得しました。既存の骨セメントはインプラント固定手術後の経年により弛みが生じ再手術の必要に迫られますが、オセジョインはその骨結合能により弛むのを抑えることができ、再手術の回避に繋がります。保険適用を受けた後、商品化を計画しています。また、人工骨関連製品の品揃えも企図し、新規医療用材料の研究開発も進めています。

#### 医薬用中間体・原薬

塩酸セビメリン原薬に続く医薬用中間体として、当社のコア技術であるCF<sub>3</sub>ピリジン化合物を主とする受託生産事業の拡大を目指した研究開発を進めています。

ライフサイエンス事業本部 本部長 加藤雅也



—生物農薬を活用し、人・環境に優しい農薬を目指す—



生物科学研究所  
IPM グループリーダー  
森 光太郎

開発マーケティング部  
製品マネージメントグループリーダー  
荒木 智史

環境安全衛生統括・  
品質保証部長  
岡田 瑞穂

環境安全衛生統括・  
品質保証部長補佐  
澤木 雅彦

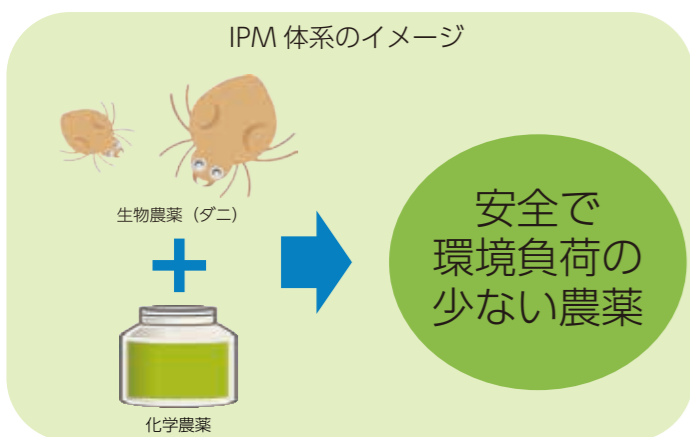
石原バイオサイエンス(株)  
特販部部長補佐  
中川 博

中央研究所長  
吉田 潔充

開発マーケティング部  
部長補佐  
森田 雅之

**岡田** 化学農薬による農作物の病害虫防除は、農業生産性の向上および食料の品質保持など安定した食料生産を確保する上で極めて重要です。一方、農作物の安全性や環境保全に対する関心が高まっています。今後一層、環境保全型農業を推進していくためには、より安全で環境に対する負荷の少ない農薬の開発が望まれています。

**吉田** 当社の農薬開発・商品化は、戦後 2,4-D (水稲用除草剤) の国内への導入に端を発し、除草剤開発を行ってきましたが、1970 年代に、研究対象を除草剤だけでなく殺虫・殺菌剤まで広げました。最近開発される化学農薬の環境や健康への影響の低減には目を見張るほどの改善が見られるものの、より高度化された安全性、農薬抵抗性問題の解決を期に当社の開発中のものも含めた化学農薬のほとんどが、生物・微生物農薬と相性の良いことに絡め、当社独自の IPM<sup>(注)</sup> 体系を構築し、より環境負荷の少ない病害虫防除技術の開発に取り組んできました。幸い、2000 年代の初めから天敵製剤 (生物農薬) の開発機会を得ました。



**中川** これまでに上市させた当社の生物農薬製品群は、農業害虫であるハダニ類、コナジラミ類やアザミウマ類などを捕食し、世界的に広く生物農薬として利用されています。

**澤木** 広義の生物農薬に含まれると言われる微生物農薬であるミニタン WG について聞かせてください。

**荒木** ミニタン WG の有効成分は世界中の土壌に生息する糸状菌で、様々な野菜等を侵す菌核病菌の菌核にのみ特異的に寄生し、破壊するカビの仲間です。害虫類を捕食する生物農薬製品と同様、自然界での営みを、病害防除に応用したものがミニタン WG です。

**澤木** 当社生物農薬分野で、最近上市された製品が IPM の概念を一新すると聞きました。その製品について聞かせてください。

**森田** 新製品のバンカーシート製品はカブリダニ類製品とバンカーシートと呼ばれる資材を組み合わせた製品です。従来の天敵製品が対処的な撒布処理剤であったのに対し、本製品は、バンカーシート (紙製函型資材) が、その内部をカブリダニに最適な温・湿度に保って増殖を促し、長期間にわたり、農業現場で増殖しながら放出する他、その化学農薬に対するシェルター効果 (天敵の隠れ場所) を発揮します。バンカーシートは、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業 (実用技術開発ステージ 26070C) の下に農研機構中央農研を中心に、関係の県行政研究機関とともに研究が進められ、その成果を活用して総合的害虫防除体系を確立、実証し、実用化に至りました。本バンカーシート製品は、昨今、施設園芸分野で特に深刻さを増す薬剤抵抗性害虫類 (ハダニ類、アザミウマ類など) に対して、有用な基幹剤として位置付けられることが期待されます。

**森** 当社は、ハダニ類を捕食するミヤコカブリダニとバンカーシートをセットにした商品 ミヤコバンカーを 2016 年末に、続けてアザミウマ類を捕食するスワルスキーカブリダニとバンカーシートをセットにしたスワルバンカーを、2017 年春に商品化しました。

**澤木** 生物農薬以外にいわゆる IPM 農薬と言われる化学農薬 ベミデタッチ乳剤について聞かせてください。

**吉田** 当社は、一般的な化学農薬や生物農薬に加え、IPM 体系を更に深化させようと、身近な食品や食品添加物を有効成分とする安全性の高い農薬の研究開発に理化学研究所と共同で 2000 年代半ばから取り組んできました。2016 年に農薬登録されたコナジラミ忌避剤ベミデタッチ乳剤は、内閣府が主導する戦略的イノベーション創造プログラム (SIP プログラム) に採択され、現在、トマト栽培で深刻な問題とされる植物ウイルス病の防除に利用する技術検討が進められています。本剤の有効成分はチューインガムなどに使用される食品添加物であり、安全性に優れています。その他にも、よく問題視される輸入熱帯果実の安全なポストハーベスト剤の研究開発などにも取り組んでいます。



バンカーシート

**澤木** 最後に、IPM の今後と期待について聞かせてください。

**森田** 当社は他社にない IPM 技術を持っており、その技術を農家の皆様に使い易い安全な病害虫防除資材として提供し、高齢化が進む日本の農業を守っていくことに貢献したいです。

**吉田** 当社 IPM 事業は、単に安全性が高く環境親和性の高い生物農薬を指す生物的防除技術に捉えられがちですが、技術範囲は広く、更なる可能性を秘めています。これからも IPM 技術の深化に努めていきます。

聞き手：環境安全衛生統括・品質保証部

(注) :IPM (Integrated Pest Management : 総合的病害虫管理 (防除)) 利用可能な様々な防除技術 (化学 / 生物 / 物理 / 耕種的防除技術) を共存・活用させ、経済的許容水準まで作物被害を低減・管理すること





# レスポンシブル・ケア活動

## レスポンシブル・ケア (RC) とは

レスポンシブル・ケア (RC) とは、化学物質を扱う企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う活動のことです。“市民の知る権利を尊重し、市民の不安に耳を傾け、対話による解決を目指す。そのために法律以上のことを

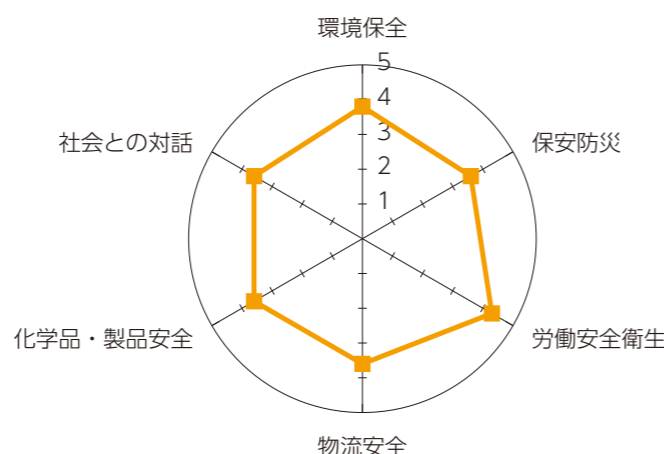
自主的に行おう、倫理的に正しいことをしよう”という考えに基づき、実施すべき具体的項目(コード)として「環境保全」、「保安防災」、「労働安全衛生」、「物流安全」、「化学品・製品安全」、「社会との対話」の6つが挙げられます。これに加え、組織的に実施するためのマネジメントシステムがあります。

## RC 活動 2016 年度の評価

RC 実施報告 / 計画書の内部監査評価表 (日本化学工業協会へ提出) をグラフにしました。

2016 年度の主な活動実績は以下となります。

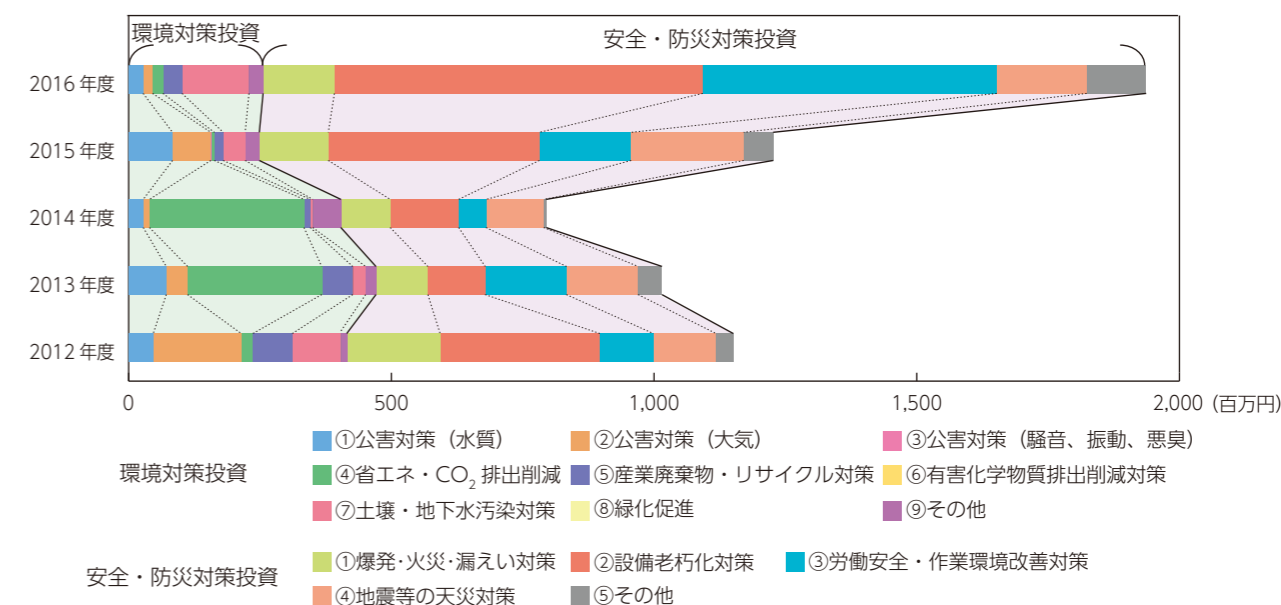
- ◆ エネルギー原単位前年比 1%以上削減達成 [環境保全] (P.14 参照)
- ◆ 工場・研究所の定期的な見学会を開催 [社会との対話] (P.23 参照)



## 環境対策および安全・防災対策への投資額の推移

中央研究所のほか、大半を四日市工場への投資に充てています。その「環境対策投資金額」および「安全・防災対策投資金額」の推移をグラフに示します。2016 年度は、環境対策として「土壌・地下

水汚染対策」への投資、安全・防災対策として「設備老朽化対策」と「労働安全・作業環境改善対策」への投資を重点的に行いました。



## CSR 報告書 全面リニューアル

当社は、2001 年より環境報告書を発行していましたが (フェロシルト等問題により一時中断)、2012 年からは CSR 報告書に表題を改めて、現

在に至っています。CSR 報告書 2017 ではページ数を削減し、ビジュアル表現を多用しました。



環境報告書 2001



CSR 報告書 2017 と RC データ集 (HP のみ)

### RC データ集のお知らせ

これまで掲載してきたデータの一部は、RC データ集として当社 HP に掲載しています。

石原産業 CSR 報告書 [検索](#)

## RC TOPICS

### 宅地化と向き合う中央研究所の取組み

中央研究所の隣接地域の宅地化が進み、周辺で子供たちの遊ぶ姿が見られるようになりました。このような状況を受け、これまで以上に地域に配慮した取組みを行っていく必要性があります。こうした事情を背景に、2016 年 4 月に草津市と「環境保全に関する協定書」を締結

し、大気、水質、騒音・振動、悪臭などについて、関係法令や条例で定められた規制値より厳しい数値を設定しました。この数値を守るべく、研究員たちは環境負荷を少なくする工夫をしながら、日々研究を行っています。

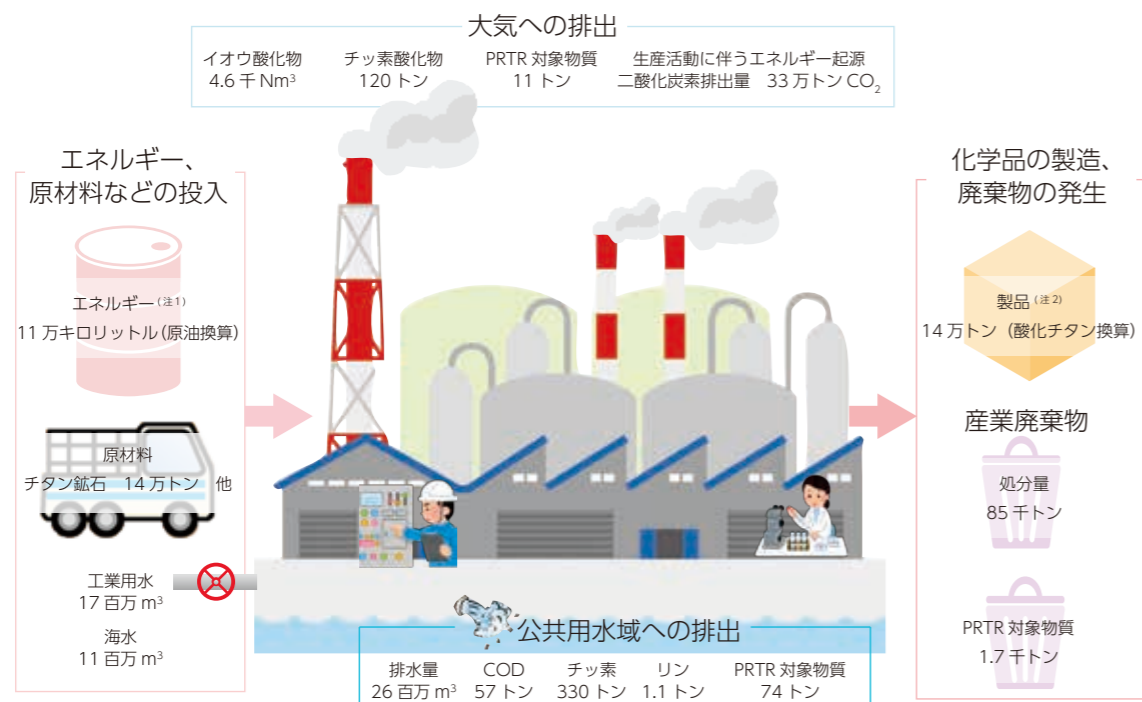




# 環境保全

## 事業活動のマテリアルバランス

四日市工場での2016年度事業活動における主要なマテリアルバランスを以下に示します。

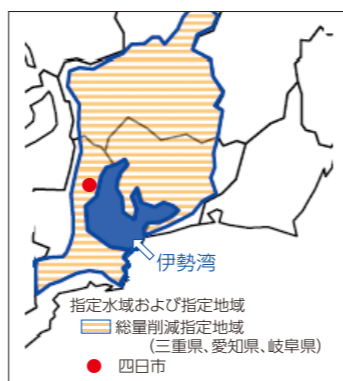


注1：重油、LNG、蒸気、電気等のエネルギーを使用していますが、これら使用量を省エネ法に基づいて原油換算した数値で表記しています。  
注2：酸化チタンのほか、機能材料、化成品、有機製品等の製品を生産していますが、省エネ法に基づくエネルギー消費原単位を用いて酸化チタンの生産量に換算した数値で表記しています。

## 大気および公共用水域への環境負荷の低減

### 四日市工場

水質汚濁防止法上の総量規制指定地域（伊勢湾）内に位置し、大気汚染防止法上では総量規制の適用を受ける工場となるため、通常の濃度規制に上乗せした総量規制を遵守しています。更に、四日市市と締結している公害防止協定において、より厳しい総量規制値（協定値）を定めて環境負荷の低減に努めています。



### 中央研究所

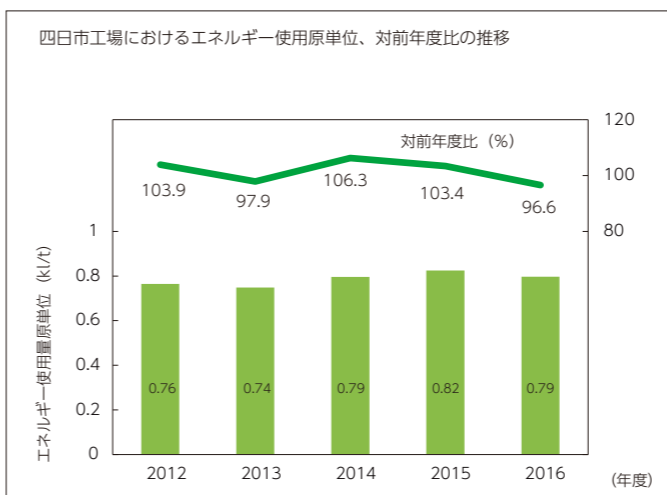
	対象	対応策
大気	実験室で発生するガス・臭気	活性炭フィルターにて脱臭処理
	粉じん	フィルターや集塵機にて捕集処理
水質	下水道への排水	実験後の廃液は下水道に排出せず、分別回収して産業廃棄物として処理 排水 PH 値の 2 重管理

## 省エネルギーの推進

当社は、省エネ法（エネルギーの使用の合理化等に関する法律）上の特定事業者にあたり、四日市工場は第一種エネルギー管理指定工場等に指定されています。また当社は、貨物輸送に関し、特定荷主に指定されています。

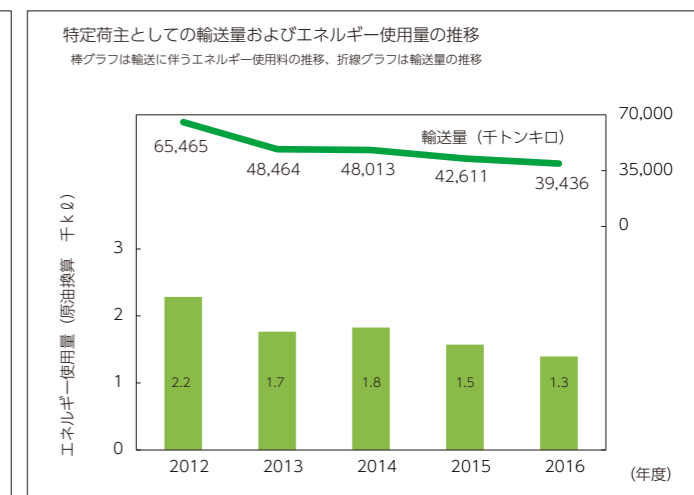
### 特定事業者

エネルギー使用量の大半（約98～99%）を四日市工場で使用しています。四日市工場の2016年度エネルギー使用原単位は、2015年度対比で3.4%の改善となりました。しかし、過去5年間の平均値と比較すると、1.0%の悪化となりました。なお、エネルギー使用原単位は四日市工場の影響が大きく、特定事業者としては1.1%の悪化となりました。



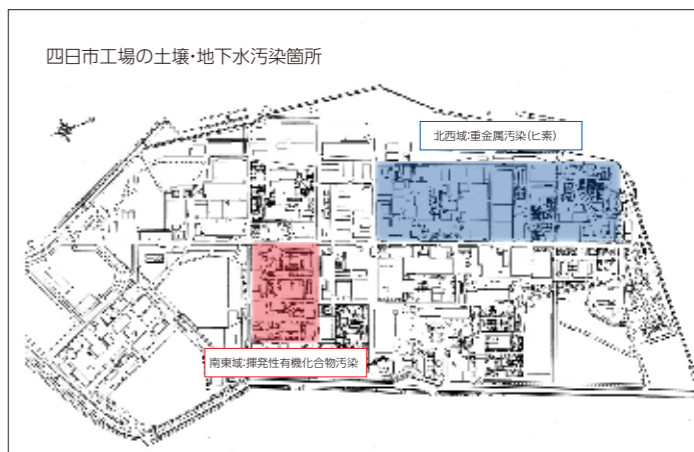
### 特定荷主

貨物輸送に係る特定荷主としての輸送量（トンキロ）およびエネルギー使用量の推移を示します。環境負荷低減を目指し、荷主として物流協力会社に対し商品を顧客に届けるまでの間、効率的な輸配送業務（大型車両での輸送による台数の削減および積載率の向上等）で、環境負荷の少ない運行の徹底をお願いしています。



## 土壌・地下水汚染対策について

四日市工場における土壌・地下水汚染について、学識経験者の指導を得ながら調査、修復に取り組むため、2008年に「環境専門委員会」を設置し、汚染対策を実行しています。委員会は一般公開とし、地域住民の皆様の傍聴が可能であり、その審議資料、議事録は当委員会ホームページを通じて公開しています。また、定期的に地域・行政・企業が参加する環境安全に係わる協議会にて、進捗状況を報告しています。各汚染域の対策として、バリア井戸から地下水を汲み上げ浄化処理を行っています。



石原産業 環境専門委員会 検索



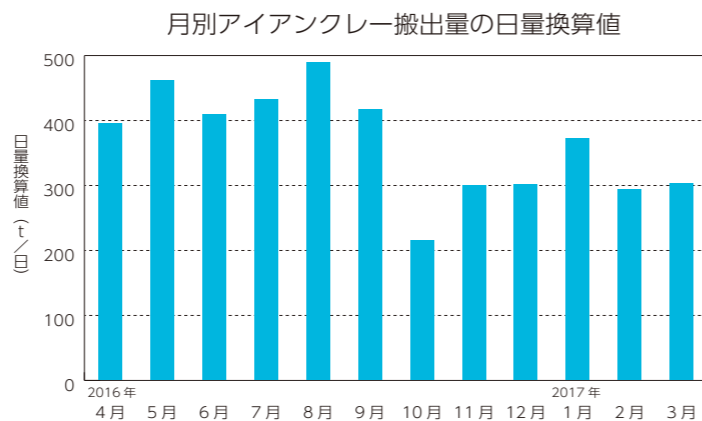
# TOPICS ① 環境負荷低減を目指して

## 1 アイアンクレーの発生抑制

四日市工場では、酸化チタン等の各生産活動に伴って発生する不要な固形分（アイアンクレー）を産業廃棄物として処分場に適切に搬出していますが、年間約 10 万トンもの量であり、その削減が当社の課題となっています。

そこで 2015 年 4 月に工場プロジェクトチームを立ち上げ、アイアンクレーの削減方法について検討を開始しました。まず試験室での小規模検討で、発生量を抑制する排水処理方法を見出し、次いで実際の工場の処理施設において、その方法に必要な機器の購入、整備を順次行いました。そして 2016 年 10 月の定期修理後に新しい方法に切り替えた結果、アイアンクレーの発生量は約 3 割低下し、年間約 7 万トン相当（実に約 3 万トンの削減）になりました。この削減量は、理論上も裏付けられていることから、今後もアイアンクレーの発生量は現状レベルで推移していくと思われまます。

当社では、更なる発生量抑制方法を引き続き検討しており、逐次実施していく予定です。

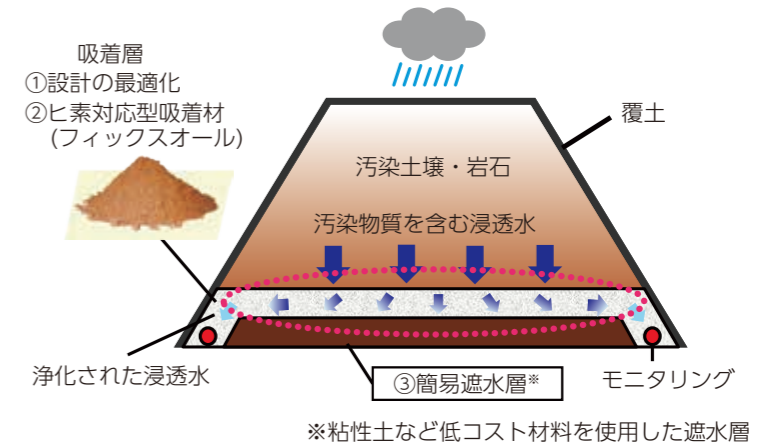


## 2 環境商品（フィックスオール）

当社の環境商品は、酸化チタン生産時の副産物を有効に利用して、産業廃棄物の低減に貢献しています。環境商品は、積極的に環境の改善に貢献することをコンセプトに開発しており、有害な物質を含む汚染水や汚染土壌を処理する製品をラインナップしています。

環境商品 フィックスオールについては、2015 年度から（株）大林組と共同研究で、汚染土壌対策としての「吸着層工法」の実証試験を実施しています。試験結果は良好で、汚染土壌を含む吸着層盛土から排出されてくる水の重金属濃度は、設計どおり環境基準値以下に処理されていました。

日本では自然の土壌にも、部分的には高濃度で有害な重金属が存在します。今後、トンネル工事等で重金属を含有した土壌の発生量が増えることが予想され、本技術が役立つ場面が出てくるものと考えています。



## 3 蓄熱材「ハスクレイ<sup>®</sup>」

新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と当社を含む民間企業 4 社は、産業技術総合研究所（産総研）が開発した蓄熱剤「ハスクレイ<sup>®</sup>」（登録番号：第 5223687 号 権利者名称：産総研）をベースに、より高性能な蓄熱剤の量産製造技術を確認し、従来型より 2 倍以上の蓄熱を可能とする可搬コンパクト型蓄熱システムを開発しました。今後は実用化検証試験を通じて得られた知見をもとに、給湯、冷暖房等へ適用する熱利用システムとして市場展開を目指します。

2017 年 3 月には開発した蓄熱システム装置を用いて、実際の工場実用化検証試験を行いました。蓄熱システムの運転に問題はなく、また目標としていた蓄熱量が確保できたことで、実用化が可能であることを確認しました。現在は、この検証試験の結果を詳細に解析するとともに、長期運用時におけるシステムの信頼性を評価するために試験が行われています。

当社は、本事業において「ハスクレイ<sup>®</sup>」の生産を担当しています。産総研では、実験室でのピーカースケールで開発が行われましたが、実用化までには「ハスクレイ<sup>®</sup>」を大量に生産できる生産設備が必要となります。その後の“量産化”は、単純に生産する装置を大きくすればよいというものではなく、装置を大きくすることによる反応時間の増加や、反応温度の制御など、克服しなければならない

課題が多くあります。当社は、産総研の協力を得ながら、蓄熱材の量産化検討を行い、工場規模での蓄熱材生産の技術を確認しました。具体的には「ハスクレイ<sup>®</sup>」の原料であるケイ素やアルミニウム等を苛性ソーダで中和する際に、各元素の偏在を少なくし均一とすることで、高密度で高性能な「ハスクレイ<sup>®</sup>」の製造が可能となりました。今後、実用化レベルの生産が安定して行えるように取り組み、省エネの実現に貢献したいと考えています。



※「ハスクレイ<sup>®</sup>」は CSR 報告書 2016 でも取り上げています。



## 特集 2

# 新人事部長に聞く ISKの人材育成・働き方

グローバル化、少子高齢化に伴う労働人口の減少等、企業を取り巻く環境は刻々と変化していきます。そこで2017年2月に就任した水谷人事部長にISKの人材育成の基本的な考え方、社会の変化に応じてISKでの働き方がどうあるべきかを語っていただきました。

聞き手：環境安全衛生統括・品質保証部



人事部長  
水谷 朗

### － 当社の人材育成に関する基本的な考え方を教えてください。

社会に出て、会社に入ってから人生の多くは会社で過ごす時間です。会社生活をいかに充実したものにできるかで、その人の人生の充実度合いは変わってきます。その点で会社の人材育成は人生の充実度合いと結びついていると思います。会社の業務・仕事を通じて人が成長し、充実した毎日を送り、ひいてはそれが会社の成長・発展に繋がっていくと思います。そしてその会社の成長・発展によって人はまた充実した日々を送ることができ、更により良い生活＝人生に繋がっていくと考えています。

### － 人事ローテーションに関し、考え方を聞かせてください。

新しい職務を経験することは、組織・個人共に良いことばかりだと思っています。異動することは本人やご家族にとって負担になることもありますし、職場も初めは混乱するかもしれません。しかし、多様な業務経験を積むことによって、幅広い知識や視野を養えますし、個人の適性や能力を見極められて、自身のキャリアパスの形成・実現に役立ちます。業務のマンネリ化に伴うモチベーションの低下を防ぎ、職場としてもコミュニケーションの活発化にも繋がると考えています。

### － 次に研修に関して教えてください。若手・中堅・管理職等の階層ごとに行われる研修以外に、特色ある研修は実施されていますか？

当社で、研修を実施する理由は、それを自身の学びや気づきの機会と捉えてもらい、自律的に考え行動し、自分から成長していくんだという積極的な姿勢を持ってもらいたいからです。階層ごとに行う研修に加え、特色ある研修として、個人・組織のニーズを意識した選抜型研修、無機・有機の新テーマを探る研修、研究・営業等の職種ごとに考え方や行動の道筋を学ぶ研修、リーダー層の役割や考え方を学ぶ研修、スキルアップ研修等があります。

### － 特に力を入れている研修はありますか？

今、特に力を入れているのは、管理職層の研修です。3年前からマネジメントリーダー研修とトップリーダー研修を実施しています。各部門で中心的な役割を担っている管理職に対し、マーケティング力、企画立案力、

課題解決力と共に統率力を学んでいただきたいと思います。個々の従業員が自己啓発や研修等で各々の力量を上げることはもちろん大切ですが、組織を構成しているその個々の力を十分に引き出せるかは、組織のリーダーのマネジメント次第だと考えているからです。

### － 海外展開の加速に伴い、グローバルに活躍できる人材を育てていく必要もあると思います。グローバル人材育成プログラムの概要を教えてください。

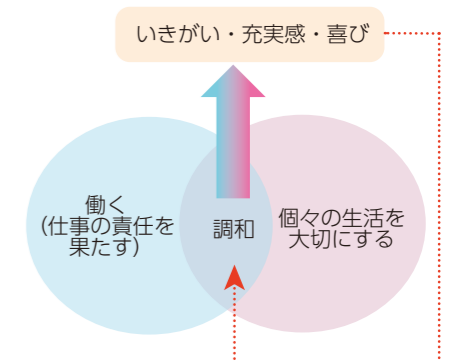
グローバル化は単にロケーションが海外という意味だけでなく、国内外のどこにいても国際感覚をもって仕事をしていくことと考えています。外国語が話せるというだけではなく、グローバル化に対応した研修として、実際に海外で経験を重ね国際感覚を養う海外派遣研修、職場や自宅の近くで実際に外国人と接し語学力を高めてもらうネイティブクラスレッスン、レベル毎に基礎力養成や習得レベルの維持等をインターネット環境で行う自己学習支援コース等のラインナップを用意しています。これらの研修も、語学等の習得・維持のきっかけであって、自己研鑽が重要と思っています。意識してその様な環境に自ら身を置いていくことが大切だと思います。

### － 少子高齢化が進み、雇用を取り巻く環境も変わってきます。若年者・高齢者の雇用に関し、考え方を聞かせてください。

当社が人手不足の社会情勢で離職を抑え、採用難のなかでどのように人材を確保するか、また社内で若年者から高齢者までの人材をどう処遇すべきかは、大きな課題です。社会の環境の変化に合わせ、会社も変化していく、従業員の考えに合わせ働き方を見直していくことが企業の社会的責任と考えます。当社の離職率は他社と比較して低いですが、より一層若年者が職場に溶け込める環境、また雇用確保の観点から60歳以上の方にもこれまでの経験を活かし活躍できる場を作っていくことが重要と考えています。どの年代の方にもそれぞれの事情に合った「働き甲斐」を感じる職場づくりが大切と考えています。

### － 昨今世の中では働き方を見直そうという風潮が起きていますが、「ワークライフバランス」について、考え方を聞かせてください。

ワークライフバランスは仕事と生活の調和です。仕事の責任を十分に果たしながらも、個人の生活面での時間の融通を尊重する考え方です。ワークライフバランスを推進することによって、従業員の仕事に対する意識や士気の向上で、生産性や効率が向上し、結果として、将来、労働時間が短縮されていくべきではないかと思っています。しっかり働くときは働く、休むときは休むというメリハリある時間の使い方をしてほしいと思っています。



### － 4月から労使間で「働き方検討委員会」が立ち上がりました。「働き方」のベースにある「働きやすさ」や「働き甲斐」について、どのように考えていますか？

「働きやすさ」とは、いわば組織の土壌を整えるものですが、一方で、そこから花を咲かせるためには「働き甲斐」という、もう一つの側面にも当社は力を入れなければならないと考えています。私達が、仕事を通して、成果や成長を様々な面で実感できること、それが「働き甲斐」と考えています。そのためにも、性別の違いを始めとして、年齢や価値観の違う従業員に気持ち良く働いてもらい、組織の発展に繋がっていく、いわゆるダイバシティ（多様性）を重視する人事運営を行うことが必要であると考えています。



# ISK の研修・制度体験談



当社では、学卒採用の新入社員を1年かけて大事に育て上げる見職を対象としたマネジメントリーダー研修、グローバルに活躍する。また、育児休業・育児短時間勤務制度を利用される方が、安心して努めています。



習期間を設けているほか、各部門で中心的な役割を担っている管理人材育成を主眼にした海外派遣研修など、様々な研修を行っています。育児と仕事の両立に取り組めるよう、働きやすい職場環境作り

## 討議を通じ広い知見を得る



原料購買部  
新名 芳行

昨年私は管理職育成研修「マネジメントリーダー研修」を受講しました。シンガポールからの帰国や新しい部署で慣れない業務の中での研修で課題や通信教育等に時間的な配分ができず、大変な面もありました。しかし、終えてみると大いに意義のある内容でした。また、日頃接する機会の少ない部署の方々との交流・討議ができたこと、様々な部門の実態、業務遂行の方法等を聞く機会を得、共有できたことは今次研修の大きな成果の一つになっています。

## 全社目線で考えることを再認識



環境安全・品質マネジメント部  
赤松 俊彦

マネジメントリーダー研修に参加し、自社分析、課題分析、ロジカル・クリティカルシンキング、財務分析、組織統率等、リーダーとして必要な知識とその活用について、グループ討議等を通じて学ぶことができ、全社目線や幅広い視野で考えることの重要性を再認識した有意義な研修でした。また、研修には各事業地、各部署から様々な方が参加されており、自社分析等では有機事業や本社業務の話聞くことができたことも、勉強になりました。

## 世界的な食の安定供給に貢献したい



有機製造部  
村上 勝美

マネジメントリーダー研修では心理学的な観点から考察する事が多く、企業でも人が根底にあることを意識できる内容でした。2日間×5回の長丁場で、一緒に研修を受けた方と行った各種の実習も良い経験でした。本研修では、四日市工場の収益向上のために何をし、どのような商品を世の中に送り出して行くのが良いのか相当考えました。農業は今後も世界中で利用機会が拡大する商品であり、ISKのように世界の中では小さな会社でもやり方次第では世界の安定的な食料供給に十分貢献できると確信できた研修でした。



工業化研究室  
森戸 大介

## 1年間の見習期間を終えて

当社は、先輩社員が1年間見習生の仕事の進め方をサポートするというブラザー制度を採用しており、この一年間は、実験計画や報告書作成方法などのほか様々なことをブラザーや研究室の皆様にサポートしていただきました。また、年度末に行った座禅研修では、集団行動の大切さや、自己を見つめて目の前のことに全力で取り組む姿勢を学ぶことができました。一年で一人前になることはできませんが、研修期間で学んだ仕事に対する姿勢を忘れず、これからも絶えず成長していきたいと思えます。



法務部  
浅田 貴司

## 海外派遣研修を活かし、グローバルな社会貢献の一助に

2015年5月から約3ヶ月間、カナダで、語学学校・ホームステイ先等で多様な国籍・年齢の人たちと交流する、有意義な機会を与えていただきました。短い期間でしたが、グローバルビジネスにおいて必要とされる「言語」・「異文化理解」・「関係構築」等の能力の重要性を肌で感じるとともに、能力を一定程度高めることができました。今後も精進して能力をさらに高め、法務業務に活かすとともに、多様化・多国籍化するステークホルダーに対して当社が社会的責任を果たすお手伝いできればと思えます。



無機材料営業部  
河野まき子

## 育児休業・育児短時間勤務制度の利用を経て

約6ヶ月育児休業を取得後、職場復帰し、現在は育児短時間勤務制度を利用しています。部署には、同制度を利用された先輩がおり、仕事と育児の両立に理解を示して下さっていて、恵まれた環境でやらせていただいています。育休期間は、仕事を持つ親にとって、子供と長く一緒にいられる貴重な時間である反面、会話もできない子供と1対1で過ごす日々、社会から遮断された様な孤独を味わう時期です。夫も育児休業が取得できたらと何度も思いました。男性の同制度の利用が「普通」の社会になってほしいと思えます。





## 保安防災

### 四日市工場

四日市工場は古い設備が多く、潜在的な危険を認識し、対策を講じるべくリスクアセスメント(What if手法：もし～が起こったら)を推進しています。また、地震、火災等の発生を想定した四日市市南消防署との特別防災訓練を実施し、一般の方にも公開しています。残念ながら2017年2月に協力業者によるタンク撤去工事中に、溶断中の火花が廃材に引火してしまいましたが、消火器1本で鎮火し、人的被害、外部への影響はありませんでした。



特別防災訓練

### 中央研究所

自衛防災団本部隊の技術および知識の向上を図る目的で防除活動班、救援救護班を湖南広域西消防署に派遣し、ポンプ操法および普通救命の講習を実施しました。研究所では防災団組織のレベルアップのため外部講習等に積極的に参加します。



救急救命講習



## 労働安全衛生

### 労働災害の状況

四日市工場での2016年度の災害件数は9件(休業3件、不休6件)で、2015年度の3件(休業1件、不休2件)と比べ、発生件数は6件増えました。作業前の危険予知(KY)、リスク低減

措置対策の不足が原因でした。

なお、中央研究所では2016年度の労働災害はありませんでした。

### 四日市工場

#### ヒヤリハット1人1件活動・指差呼称の推進

「ヒヤリハット1人1件活動」を推進しています。職場の危険・有害リスクを抽出するだけでなく、低減措置を実行して安全な作業の確保を目標にしています。また「指差呼称」も強化しています。工場全従業員が指差呼称を実践する場所として、工場正門付近の横断歩道とし、横断時は左右を指差呼称して確認する取り組みを行っています。

#### 協力会社への安全教育等の安全配慮

設備工事等で入場する協力会社に対して、場内での事故等を未然に防止することを目的に場内ルール等の教育を行い発注者としての安全責任を果たしています。



2017年度安全衛生スローガン



## 物流安全

### 物流の品質・安全向上に向けた取り組み

安心した物流品質の提供がお客様からの信頼獲得に繋がるとの信念のもと、物流品質の向上に日々取り組んでいます。物流品質の柱は「納期、一連の作業の質、安全作業」と考え、協力会社も含めたスタッフの教育に力を入れています。2017年度は保税業務での外国貨物の取り扱いなど具体的な事例をもとに勉強会を開催しています。また、ローリー漏えいを想定して、関係者が取るべき処置等を改めて確認しました。



協力会社との合同勉強会



## 化学品・製品安全

### 安全データシート等による情報提供

当社の製品はそれを使用される企業で働く人、物流に携わる人、消費する人等様々なステークホルダーの手に渡っていきます。当社では、製品に係わる化学物質に関する情報を安全データシート等に落とし込んで、積極的にステークホルダーに提供しています。化学物質は外観から直ちに危険性が分かりません。危険性に関する情報等を伝達することは、供給者の社会的責任と認識し、法令上開示が要求される物質だけでなく、当社で扱う化学物質を対象に、広く情報伝達を行っています。



当社が提供する安全データシート等

### 人・環境にやさしい農薬開発を目指して

人や環境に影響を与えない、より良い商品を社会に供給することを目的に製品開発を行っています。とりわけ中央研究所では、農薬となりうる有望な化学物質を見つけ出すために数多くの新規化合物の合成に取り組んでいます。農薬開発を進める各段階で多種多様な安全性評価を繰り返し、安全な農薬を供給しています。廃棄物が少なくすむ原料を選定するなど環境負荷を考えた原料調達もを行っています。



人・環境にやさしい農薬開発





## 社会との対話

### 四日市工場

特に地域の方等に向けて情報発信することを重視して、社長直轄の四日市広報部を設置しています。具体的な取組みとして、年に1～2回の頻度で地域の皆様を中心とした工場見学会を開催し、安全・安心な工場に向けた取り組みをご説明させていただいているほか、地元教育機関からの要請に応え、地元中学校の生徒さんを対象にした工場見学、中学校を訪問して「働くこと」をテーマにした特別授業を実施しています。また、地域・行政・



一般の方に防災訓練を公開



特別授業の様子

### 中央研究所

安全・安心な農業開発の拠点というだけでなく、開かれた研究所でありたいとの思いから、近隣の高校生向けに研究所見学会を実施しているほか、近隣の小学生の総合学習発表会・交流会を所内で



近隣小学校との交流

関係企業の協力のもと実施される鈴鹿川の清掃活動（鈴鹿川クリーン作戦）に参加し、地域行事を大切にしています。更に、地域の交通安全にも貢献すべく、四日市南地区交通安全協会に加盟し、地域の主要交差点で、交通弱者を事故から守るべく誘導等を行っているほか、当社従業員が四日市南警察署協議会の委員となり、地域の要望を警察に伝える活動等も行っています。



地元中学生を対象とした工場見学



鈴鹿川河川敷の清掃活動

開催する等の活動も行っています。また、中央研究所がある草津市の「市内一斉清掃」に合わせて年2回の「周辺道路ボランティア清掃」を実施しています。



周辺道路ボランティア清掃

## TOPICS ② 従業員 VOICE

「従業員の顔が見える CSR 報告書を！」との思いから、各事業地（本社、中央研究所、四日市工場、東京支店）で働くスタッフによる「私の目標」をテーマにしたメッセージを紹介します。

### 農業の普及による社会への貢献



開発マーケティング部  
小川 宗和

花の美しさを維持するためにも農業は多く使用されています。農業の普及が人の心を豊かにすることで社会に貢献できると考えながら、販売活動に取り組んでいきます。

### 広報活動を通して目指すこと



本社総務部  
亀井奈津恵

株主総会やホームページその他広報活動を通して、ステークホルダーの皆様と信頼関係を築けるよう対応力を高め、又、分かりやすく最適な情報発信に努めています。

### 優れた薬剤で作物生産性の向上を



創薬科学研究室  
米田 哲夫

生産者や消費者の方々に安全と安心を提供できる、雑草や病害虫に対して優れた性能を持ち、実用場面や製造面で環境への負荷を低減する夢の新薬創製を目指します。

### 地域との調和を大切に



中央研究所総務部  
小谷 彰宏

中央研究所での研究活動を通じ、自治体及び近隣住民との関わりを大切に環境保全、保安防災、労働安全衛生等のRC活動に取り組んでいます。

### 安全・安心な工場を目指して



酸化チタン生産部  
松浦 貴士

私は当社の過去の教訓を活かして法令順守を第一に考えて仕事をします。さらには我々の若い力で安全に働ける職場づくりと地域社会の安心に貢献することを目指します。

### 社会貢献できる商品を目指して



商品開発部  
藤村 猛

開発段階から環境への影響に配慮しつつ、社会に貢献できる商品、お客様満足度の高い商品の開発、改良、そしてサービスに挑戦し続けます。

### 後進への技術継承



無機化学営業本部  
丸林 裕史

当社の酸化チタン系無機材料を需要家に安心して使っていただけるよう、私の技術者としての経験を活かして、その製造方法の勘所を若い技術者に伝えていきます。

### ステークホルダーと共栄を目指して



無機材料営業部  
吉岡 進也

世の中のニーズを敏感に捉え、新しい市場・価値を創造してお客様と共に発展すること、そして世の中に何かつめ跡を残す事が私の目標です。



# ISK の足跡

当社は東京オリンピック・パラリンピックが開催される 2020 年に創立 100 周年を迎えます。100 周年を迎えるまでの 4 年間、当社の足跡を振り返っていきます。初回の 2017 年は、当社設立から鉱山業撤退までの足跡を「鉱山」をキーワードにご紹介します。

## 設立・戦後の歩み

### 生まれながらのグローバル企業

当社の前身である南洋鉱業会社は、1920 年（大正 9 年）に石原廣一郎氏によって、マレー半島の鉱山業、その輸送を担う海運業を主体として設立されました。その後、第 2 次世界大戦終結時までは鉱山業が主体の東南アジア一帯にわたる大企業体でした。



現存する 35 年史

### 戦後 ISK の歩み - 有機化学事業・無機化学事業を擁して



四日市工場全景（1952 年）

第 2 次世界大戦の終結とともに当社は全海外資産を喪失し、国内数箇所の鉱山・四日市での銅精錬工場等を手元に残すのみとなりました。（1949 年当時、従業員数 3,326 人）

国内で鉱山業を継続する一方、四日市の設備は空襲と地震による被災で、精錬工場の復旧は断念。代わりに精錬に使用する硫酸工場とその副産物である硫酸による肥料事業を開始します。さらに 1950 年（昭和 25 年）から農薬、1954 年（昭和 29 年）から硫酸法酸化チタン事業に乗り出し、有機化学事業・無機化学事業を擁する総合化学メーカーとして戦後を歩んでいきます。

有機化学事業では戦後、アメリカより「2,4-D」（水稻除草剤）を導入し、1970 年代には殺虫剤・殺菌剤分野にも進出、無機化学事業では 1974 年（昭和 49 年）にわが国唯一の塩素法酸化チタン工場を設置し、現在の「石原産業株式会社」の原型ができあがっていきます。

### 選択と集中 - 鉱山業からの脱却

終戦直後から、国内に残った鉱山（紀州・妙法など）で銅採掘により鉱山事業を継続してきました。1954 年（昭和 29 年）に酸化チタン事業進出の資金調達のため、高品位銅山であった妙法鉱山を売却する一方で、国内事業の柱として紀州鉱山は操業を続けましたが、最終的に採掘粗鉱の品位低下と銅価格の低下により、経営的に採算が合わないとの判断から、1978 年（昭和 53 年）に閉山しました。



わが国唯一の塩素法酸化チタン工場

## 紀州鉱山

### 栄枯盛衰



採掘した鉱石を粉砕・処理して銅精鉱に仕上げる板屋選鉱場

1934 年（昭和 9 年）から 1978 年（昭和 53 年）の閉山に至るまでの 44 年間で約 9,500,000 トンの銅鉱石を採掘しました。最盛期《1943 年（昭和 18 年）》には、従業員 3,000 人を擁する賑わいのある事業集落を形成していました。

終戦後も、石原産業株式会社の基幹事業として、会社再興の原動力となりました。

1955 年（昭和 30 年）以降、紀州鉱山ではコスト削減等の懸命の努力が行われておりました。例えば収益に寄与すべく、苗木の育成および山林への植樹等による林業、セメント用の碎石として販売を開始した碎石販売業、冬場に坑内で稚魚を育て浜名

湖と同様に溜池で育てる方式の養鰻業等にも取り組みましたが、鉱山の閉山とともにこれらの副業からも撤退し、現在全ての事業は終了しています。

他方、操業当初（1934 年）から 11 月 1 日に行われていた山神祭については、閉山後（1978 年）も、「地域参加型のスポーツ、芸術文化行事のふるさとまつり」として熊野市紀和町に引き継がれています。

### 現在（鉱山保安）

現在の紀州鉱山は、鉱山保安法のもと、当社グループ企業の石原産産株式会社が鉱山保安業務を行っています。鉱山保安業務としては、鉱業権者として鉱山保安法で登録されている 37 か所の使用済み特定施設（堆積場）の保安管理、堆積場、坑口から出てくる坑廃水の水質管理および坑道等施設の維持管理を行っています。なお、経産省産業保安監督部による年 2 回の検査にも対応しています。

他にも紀州鉱山の敷地を活かして日光のあたる自然環境に酸化チタン試験片を設置して、定期的に試験データを採取する酸化チタン自然曝露試験を石原産産株式会社から委託を受けて実施しています。熊野市では紀州鉱山を産業遺産的な位置付けにしたいとして、選鉱場跡の整備や市民の坑道探検に取り組んでおり、紀州鉱山として、鉱山等の巡視とともに、地域住民の皆様との交流を深め、日々鉱山の安全を確認しています。



坑道点検





石原産業株式会社

■ 事業所

本社	〒550-0002	大阪市西区江戸堀一丁目3番15号
中央研究所	〒525-0025	滋賀県草津市西渋川二丁目3番1号
四日市工場	〒510-0842	三重県四日市市石原町1番地
東京支店	〒102-0071	東京都千代田区富士見二丁目10番2号 飯田橋グラン・ブルーム
中部支店	〒510-0842	三重県四日市市石原町1番地
札幌営業所	〒060-0003	札幌市中央区北三条西一丁目1番地 サンメモリア9階
仙台営業所	〒980-0811	仙台市青葉区一番町1丁目1番41号 カメイ仙台中央ビル
福岡営業所	〒810-0001	福岡市中央区天神五丁目10番11号 イトーピア天神ビル

■ 本報告書に関する問い合わせ先

社長室 環境安全衛生統括・品質保証部

TEL 059-345-6205 FAX 059-345-6206 ホームページ <http://www.iskweb.co.jp/>





# 「石原産業 CSR 報告書 2017/RC データ集」アンケート

「石原産業 CSR 報告書 2017/RC データ集」をご覧頂き、誠にありがとうございます。今後の参考とさせていただきますため、ご意見ご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします。

送  
付  
先

石原産業株式会社 社長室  
環境安全衛生統括・品質保証部 行

FAX : 059-345-6206

## Q1(1). CSR 報告書について、どのように感じられましたか。(該当部分に○をつけてください)

	(満足) 5	4	3	2	1 (不満)
【内容】	-----	-----	-----	-----	-----
【わかりやすさ】	-----	-----	-----	-----	-----
【デザイン】	-----	-----	-----	-----	-----
【情報量】	-----	-----	-----	-----	-----

## (2). 2017 年版より CSR 報告書と RC データ集 (当社 HP 掲載のみ) に分けて発行しています。分冊化についてどのように感じられましたか。

良い	良くない	特に意見はない
-----	-----	-----

## Q2. 当社の CSR 活動・RC 活動をどう評価されましたか。

(満足) 5	4	3	2	1 (不満)
-----	-----	-----	-----	-----

## Q3. CSR 報告書の中で関心を持たれたのはどの項目ですか。(複数回答可)

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 会社概要/事業紹介       | <input type="checkbox"/> TOPICS①環境負荷低減を目指して          |
| <input type="checkbox"/> トップメッセージ        | <input type="checkbox"/> 特集 2 新人事部長に聞く ISK の人材育成・働き方 |
| <input type="checkbox"/> 企業理念            | <input type="checkbox"/> 保安防災/労働安全衛生                 |
| <input type="checkbox"/> 第 6 次中期経営計画     | <input type="checkbox"/> 物流安全/化学品・製品安全               |
| <input type="checkbox"/> 特集 1 有機技術の新たな展開 | <input type="checkbox"/> 社会との対話                      |
| <input type="checkbox"/> レスポンシブル・ケア活動    | <input type="checkbox"/> TOPICS②従業員 VOICE            |
| <input type="checkbox"/> 環境保全            | <input type="checkbox"/> ISK の足跡                     |

## Q4. 今後さらに充実すべき点、改善すべき点、詳しく知りたい点などがあればお聞かせください。

## Q5. 本報告書をどのような立場でお読みになりましたか。

- |  |                                  |                                    |                                  |                                       |                                  |
|--|----------------------------------|------------------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> お客様           | <input type="checkbox"/> お取引先    | <input type="checkbox"/> 近隣にお住まいの方 | <input type="checkbox"/> 株主・投資家  | <input type="checkbox"/> 金融機関         | <input type="checkbox"/> 政府・行政機関 |
| <input type="checkbox"/> 報道機関          | <input type="checkbox"/> 学生      | <input type="checkbox"/> 研究・教育機関   | <input type="checkbox"/> NGO/NPO | <input type="checkbox"/> 企業の環境/CSR 担当 |                                  |
| <input type="checkbox"/> 当社グループの従業員・家族 | <input type="checkbox"/> その他 ( ) |                                    |                                  |                                       |                                  |

## Q6. 本報告書をどのようにしてお知りになりましたか。

- 当社 HP  当社からの送付・贈呈  展示会  当社グループ社員から  その他 ( )

ご協力ありがとうございました。